

令和4年度

事業計画書

社会福祉法人 藤英会

I. 施設理念

～ のびのび 明るく 穏やかな暮らし ～

II 施設方針

1. 一人でも多くの方に<家としての暮らしの場>を提供することが私たちの使命です。
2. スタッフは<心をつなぐ>にし、ご利用者様の暮らしに寄り添ってまいります。
3. ご利用者様のお話しを丁寧に聞き、ご家族参加型の施設運営を目指します。
4. 地域の皆様に、お気軽にご利用いただき、また育てていただけるよう取り組んでいきます。
5. スタッフ一人一人の<やる気>と<向上>を支援するためのシステムを整えております。

III. 事業方針

コロナウィルスとの戦いは続き、介護業界に深刻な影響を与えています。ワクチン接種や基本的な感染対策が行われていても、高齢者施設でのクラスター発生は第 6 波が過ぎた今も報告が続いています。前年度より感染症BCPの話し合いを始めていますが、更に内容を精査しながら不測の事態に備えていきたいと思えます。

「2025 年の危機」の突入時期となり、「支え手不足」が叫ばれる中、施設では派遣社員を使わず適正シフトが組んでいることが当たり前のことではないとの認識を持たなければなりません。技能実習生の受け入れ、介護ロボットや ICT の導入を進めるとともに、みどりの丘で働く職員にやりがいや将来に希望が持てるような取り組みを事業所として行っていかなければならないと考えています。

いち早く SDG S 活動に手をあげたのは、長期的な視野で物事を考えることができる職員の育成と、社会の課題を解決していくという社会人として当たり前のことができる人材が介護の担い手であるべきと考えるからです。

IV.事業目標

- (1) 施設生活の中で社会課題となり得る問題の解決に取り組みます。
- (2) 介護技術や接遇の向上を図り、「みどりの丘の介護」を確立していきます。
- (3) ICT の導入により情報の共有に努めサービスの向上を図ります。
- (4) 自然災害と感染症のBCPおよびBCMを策定し緊急事態時に備えます。
- (5) 各部署の努力により稼働率を上げ、高稼働率の維持につなげます。

V.事業実施計画

(1) 介護老人福祉施設事業

- ① 「みどりの丘の介護」に繋がるチームケアを行います
一人一人の利用者様にそれぞれの専門分野の知識を生かしながら、関りを持つことでより良いケアができるチームケアを目指します。
- ② スタッフの「やる気と向上」を支援していきます
職員が働きやすく、一緒に学び、共に育つ環境を作ります。理想の施設とはどんな施設なのか、スタッフ自身が考え、みどりの丘での実現を目指します。
- ③ 地域から信頼される施設になります
居宅、デイサービス、ショートステイから入居まで介護が必要になった時の受け皿から最後のお住まいとして特養の役割を果たしていきます。
信頼を寄せて頂けるような介護力のある施設を目指します。
- ④ 施設全体で SDZS 活動の輪を広げます
昨年より川崎市の SDZS 施設として認定されました。
より広い視野に立ち、社会の課題解決を行っていくことを目的に始めました。
2030 年に向け長期的に取り組んでいきます。
- ⑤ 目標稼働率
上記の取り組みにより入居稼働率はユニット 97.7%・従来型 91%、
空所利用と合わせ、年間稼働率 98%を目指します。

(2) 短期入所生活介護事業

- ① ご利用者様本人とご家族様から聞き取った内容をサービスに反映し、顧客満足度ならびにリピート率の向上を目指します。
- ② 介助の根拠を意識して、マニュアルに沿った食事・排泄・入浴介助のサービスの質を上げ、「みどりの丘のショートステイでは、安心して生活を送ることができる」と感じていただけるような施設を目指します。
- ③ ICT化を進めることで、情報アクセスを容易とし、他事業所や多職種との連携を深めていくことを目指します。
情報共有を効率化することで、ご家族様やご利用者様に適切なサービスを提供できるような環境づくりを目指します。
- ④ 目標稼働率
前年に引き続き、稼働率 130%を目指します。

(3) 通所介護事業所

- ① 高齢者の「元気な生活」を支える、地域福祉の担い手になります
機能低下やコロナ禍で自宅に引きこもりがちになっている高齢者の生活を活動的なものにし、充実したシニアライフを送って頂くお手伝いをします。
- ② 介護する人の負担を軽減します
デイサービスを利用して頂くことにより、介護者が介護から解放される時間を持つことができ、利用者も家族も良い家庭環境で生活できるお手伝いをします。
- ③ 安心・安全なサービスの提供します
新型コロナ感染予防対策を強化するとともに、特養併設の利点（設備・人材）をフルに活用し、利用者に安心して安全なサービスを提供していきます。
- ④ 趣味や生きがいを発見する場所となります
機能訓練・レクリエーション・創作活動などを通し、他の利用者やスタッフと交流を持ち、新しい趣味や生きがいを発見できるように支援していきます。
- ⑤ 目標稼働率
上記の取り組みを行っていきますが、地域に同業者が連立していること、又コロナ禍で利用者の確保が困難であることを踏まえ、前年度より目標稼働率を 60%に下降設定とさせていただきます。

(4) 居宅介護支援事業所

在宅で生活されている方、困難になった方が笑顔で過ごせるように、事業所内の連携の強化を続けていきます。

居宅介護支援事業所の使命として法人に属している居宅介護支援事業所の使命を念頭に置き、地域で必要とされる事業所として相乗効果を生んでいきます。

平均稼働率 100%を維持していきます。

VI.介護サービス指針

① 尊厳を重視したケアに努めます

ご利用者様の意思を尊重し、自己決定ができるように支援していくことが一番大切なことと捉えています。丁寧な声かけと残存機能を活かした介助行い、利用者様に優しいケアに努めます。

② 笑顔になれる「食」の充実を図ります

「入浴・食事・排泄」の三大介護は高齢者の生活を支える上でなくてはならないものです。その中で食事は「食べることは生きる事」と考え今までも重要視してきました。季節感のある食事やメニューの選択、食べたいものをリクエストできるなど利用者様が笑顔になれる食事を提供していきます。

③ 日々の暮らしを大切にします

レクリエーション、クラブ、イベント活動が制限されるコロナ禍の中で、改めて施設の生活が利用者様を支えていることを実感しています。日々の生活を大切にすることで利用者様の安心と安全を守っていきたいと思います。

④ 感染症予防に努めます

感染症を恐れるのではなく正しい予防と必要な対策がこれからもできるように努めます。感染症BCPの策定、マニュアルの浸透、随時見直しを行いながら予防に努めていきます。

VII.提供するサービス内容

(1) 行事・イベント

慣れ親しんだ風習、四季の移り変わりが楽しめるような行事

4月	お花見（施設周辺）	
5月	端午の節句	筍ご飯
6月	開設記念日	松花堂弁当
7月	七夕	丑の日（うなぎ）
8月	花火大会	
9月	敬老会	お祝い御前
10月	お月見	
11月	秋まつり	屋台メニュー
12月	クリスマス会	クリスマスメニュー
1月	お正月	おせち・お汁粉
2月	節分（フロア毎）	節分メニュー（鰯、大豆）
3月	ひな祭り	ちらし寿司
イベント	フロア毎で企画	
外出レク	花見・外食・買い物	状況を見ながら
移動パン屋さん	好きなパンの購入	第1・3・水曜日

※感染予防のためフロア毎に実施

(2) クラブ活動

趣味や得意分野を生かして頂く活動

クラブ名	内 容	開催頻度
囲碁クラブ	・初心者には入門教室がある ・囲碁仲間が集まり碁を楽しむ	状況を見ながら
書道クラブ	・筆を持って書を書く ・季節に合わせた文字を書く	状況をみながら
音楽クラブ	ピアノ演奏に合わせてなじみの唱歌を 歌うことで楽しみにつなげる	状況をみながら
美容クラブ	・美容部員の方と一緒に化粧をする ・香りや化粧動作がリハビリにつながる	状況をみながら
手芸クラブ	日本の風習にちなんだ手芸品を作る	状況をみながら
シネマクラブ	懐かしの邦画・洋画を見る会	状況をみながら

VIII. 職員研修計画と活動

(1) 定例研修・学習会

職員のスキル向上のための研修および勉強会

実施月	研修内容	主催
4月	令和4年事業計画書 法令遵守・モラルについて	施設長
5月	高齢者虐待防止（身体拘束含む）と不適切ケアについて	副施設長
6月	食中毒の予防および蔓延防止に関する事例検討	栄養士
7月	事故の発生またはその再発防止について	事故防止委員会
8月	高齢者の体調変化と観察、夜間緊急時の対応	看護師
9月	認知症に関する研修	副施設長
10月	救命救急と緊急時の対応	介護主任
11月	感染症の予防・蔓延防止に関する研修と事例検討	看護師
12月	高齢者の安全な食事に関する研修	栄養士
1月	介護保険法とケアプランについて	介護支援専門員
2月	褥瘡および看取りに関する研修	看護師
3月	事故の発生またはその再発防止に関する研修	事故防止員会
随時	介護技術などの勉強会	介護主任

(2) 会 議

意見交換や話し合いを通じて良い施設づくりを進める

会議	出席者	開催頻度	主催
定例会	施設長、事務長、専門職 介護マネージャ・チーフ・ リーダー	第1木曜日	施設長
ケアトップ会議	施設長 介護マネージャ・チーフ	第2月曜日 第4木曜日	施設長
リーダー会議	介護マネージャ・チーフ リーダー	毎月	介護M
フロアー会議	介護マネージャ・チーフ 介護リーダー・スタッフ	月2回	介護リーダー
ナース会議	看護師、施設長、栄養士	毎日	看護
カンファレンス サービス担当者会議	介護マネージャ・チーフ 介護スタッフ（居担）、 栄養士、看護師、ご家族様	随時	介護支援専門員

(3) 委員会

スタッフが意見を出し合い取り組みや改善を目指していく

委員会	内容	開催日
入退所検討 委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市の指針に合わせた入居者選び面談を行う ・面談シートに基づき入所判定を行う 	1 回/3 ヶ月
事故再発防止 委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・発生した事故検討と再発防止の提案 ・再発防止後の再評価を行う 	月 1 回
感染予防委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒および感染症防止の検討 ・コロナウイルスなど感染症防止の啓発活動 	1 回/3 ヶ月
身体拘束廃止 委員会	入居者様の尊厳ある生活をして頂くためにも安易な身体拘束をしないことを施設全体として取り組む	月 1 回
褥瘡予防委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク者の把握する取り組み ・予防のための計画の作成と評価 	1 回/3 ヶ月
防災委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・年 2 回の避難訓練を実施 …安心して働く環境づくり（防犯を含む） 	2 回/年
笑顔になる 食事委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔につながる食事について考える ・選択食やリクエスト食など意向に添えるように 	隔月
排泄委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・残存機能を生かした介助ができるように ・自然はお通じにつながるような支援 	隔月
入浴委員会	日本人なら誰もが好きな入浴を施設でも楽しみになるような入浴方法を考える	隔月
みんな元気に レク委員会	毎日の暮らしの中に体を動かす、手先を動かす頭を使うレクリエーションを提案	隔月
SDGS委員会	「みどりの丘の介護」につながる接遇マナーを考える	隔月

(3) プロジェクト

スタッフ自身が企画運営していくプロジェクト

未 来 プロジェクト	開設 20 年目 2030 年の「みどりの丘」を考える	隔月
新卒採用プロジェクト	継続的な新卒採用に繋げる活動	随時
働き方改革プロジェクト	働きやすい環境を自ら考えていく	随時

《 みどりの丘が目指すもの 》

コロナとの闘いも3年目に入りました。
ワクチン接種も3回目が終了しましたが、施設がクラスターを生みやすい
ことに変わりはなく、2月には中原区の特養で大規模クラスター発生の事
例がありました。どんなに感染対応をしても進化しつづけるウィルス
には太刀打ちできません。
改めて施設における感染症の発症がどれ程、厳しいものかを認識しました。

一方ではインフルエンザやノロウィルスの発症はなく、令和3年度の入院
者も減少しているのは、感染予防や1日2回の検温などコロナ以前より健
康観察に重きを置いていることが功を奏しているように思います。

生活面では多くのイベントやクラブ活動、ボランティアさん、家族の訪
問が制限され、施設の暮らしだけが入居者様を支えています。
それは介護の真価が問われているのではないかと感じています。

食事が楽しみなこと、入浴が気持ちよく感じることに、洋服選びがおしゃれ
につながることに、体操やレクリエーションで身体を動かすことに心地よい
ことに、いつも誰かがいて声をかければ答えが帰ってくることに安心と思っ
て頂きたいと思います。
プライバシーがないと言われても、不安が少ないが施設なのです。

「みどりの丘の介護」を確立したいとの計画は足踏み状態を余儀なくされ
ていますが 本来の介護とは何か、本当に必要なことは何かを考えるチャ
ンスを得たと考えています。

できないことを嘆くのではなく
できることの中に価値を見つけよう

我慢の先にある未来を 希望に変えるために